

# 豊橋市議会傍聴記

地方政治クリエイト・伊藤秀昭

〈上〉

日本の歴史上有の3・11東日本大震災。「戦後」という歴史に終止符を打って、「災後」が始まる大きな転換点に我々は立っている。それだけに、地方議会に問われているのは東北大震災を「明日は我が身」としてどう

え、いかにして「市民の安心・安全の道」を具体的に、拓(ひろ)いていくのかと、いかにある。

■ベテラン議員 頼もしい限りである。逆、後列に並ぶ。豊橋市議会の風景が4期、5期のベテラン議員10人が、市議員の3分の1にあたる12人が新人議員として、議席最前列に並んでいるさまは

うでなければ、ベテランの意味がなくな

る。しかし、改選後初の6月議会一般質問

で登場したのは議長、副議長を除いて

も、共産党団長牧野英敏議員とよはし

市民会議の渡辺則子議員の2人だけであ

ったのはいかに。未曾有の自然災害に原子力発電所の事故

という人災が重なっ

て国を挙げて困難に立ち向かっている今こそ、全国の地方議会では「災害に強い街づくり」の競争が始まっているのであり、その先頭にベテラン議員が立つべきではないのか!

## ベテラン議員よ奮起せよ

■頼もしい新人議員の登場!

そうした中で、今回、4人の新人議員が初登場した。最年少の29歳、4900

票獲得して2位当選を果した気鋭の尾崎雅輝議員(無所

で市当局をただした。ただ、せっかく5月下旬に市議団で東北の震災現場に足を運んだのだから、現場のすさまじいばかりの被災地の模様を、もっともっと語るべきでなかった

か。すべての解決策は現場にあるのだから。

20年余の温室園芸農業に取り組み、農業の発展のためには政治と切り離すことができないと議員としてのコンセプトは明快な向坂秀之議員

登壇だった。国政選挙にも幾度か挑戦してきた斉藤啓議員(共産)。「安全神話」が壊れた浜岡原発については停止でなく、廃止の政治姿勢に立つべきでないか」と市長に迫っ

ろが、きっぱりと「女史の「男たち」の一節である。地域消防団の現実をもっと大胆に訴えてもいいのではないか(尾崎議員)。被災者支援システムの採用や子どもの医療費補助の拡大に、もっと食い下がってもいいのではないか(尾林議員)。農産物のブランド化について、もっと温室現場からの提案があってもいいのではないか(向坂議員)。緊急地震速報時の小中学生の対応については、もっと具体的な議論があってもいいのではないか(斉藤議員)。



で登場したのは議長、副議長を除いて

も、共産党団長牧野英敏議員とよはし

市民会議の渡辺則子議員の2人だけであ

ったのはいかに。未曾有の自然災害に原子力発電所の事故

という人災が重なっ

て国を挙げて困難に立ち向かっている今こそ、全国の地方議会では「災害に強い街づくり」の競争が始まっているのであり、その先頭にベテラン議員が立つべきではないのか!

登壇だった。国政選挙にも幾度か挑戦してきた斉藤啓議員(共産)。「安全神話」が壊れた浜岡原発については停止でなく、廃止の政治姿勢に立つべきでないか」と市長に迫っ

ろが、きっぱりと「女史の「男たち」の一節である。地域消防団の現実をもっと大胆に訴えてもいいのではないか(尾崎議員)。被災者支援システムの採用や子どもの医療費補助の拡大に、もっと食い下がってもいいのではないか(尾林議員)。農産物のブランド化について、もっと温室現場からの提案があってもいいのではないか(向坂議員)。緊急地震速報時の小中学生の対応については、もっと具体的な議論があってもいいのではないか(斉藤議員)。

# 豊橋市議会傍聴記

地方政治クリエイト・伊藤秀昭

〈 中 〉

■実りある議論は 市民の関心も高い課題であるが、抽象的  
 具体的な分析から！ 問答に終始したの  
 一日目では古閑充 は、「避難行動困難  
 宏議員（豊流会）、 性評価手法を用いた  
 伊藤篤哉議員（豊流 掘田伸一議員が取  
 会）が相次いで登壇  
 し、総合的防災対  
 策、大震災後の東三  
 河経済の諸課題など  
 について話した。

「大震災で市財政 が厳しくなる中で、  
 第五次総合計画をど  
 のように具体化して  
 いくのか」（古閑議  
 員）、「震災後の東三  
 河経済の諸課題と新  
 成長戦略」（伊藤議  
 員）などの切り口は  
 比べれば明確であ  
 り、問題は簡単に  
 ではない。重機はリ  
 スとなり、オペレー  
 ターも少なくなつて  
 来ている建設業界の  
 構造的課題をもっと  
 掘り下げるべきでな  
 いか。

る。具体的な論理の  
 展開がなければ実り  
 ある議論にならない  
 ということである。  
 ■ベテラン、中堅  
 議員が登壇した二日  
 り上げた質問項目の  
 中でも「建設業界の  
 災害対応力の低下」  
 の問題は重要な問題  
 提起である。「建設  
 業界が体力をつけて  
 機動力を発揮できる  
 ように地元優先の工  
 事発注、公共工事の  
 増大」を提案してい

目  
 二日目の冒頭を飾  
 った渡辺則子議員の  
 質問は、「浜岡原子  
 力発電所の停止でな  
 く、廃止」を訴え、  
 議員としての立ち位  
 置を明確に印象付け  
 た論理の展開であり、  
 小学3、4年生が使  
 う社会科の副読本の  
 原子力発電所の記述  
 の修正を本会議の場  
 で教育長に具体的  
 に示させたのは、その  
 ことをさらに鮮やか  
 にした瞬間だった。  
 また「市民生活の  
 安全・安心を担保す  
 るためには経済活動

半世紀の歩みを総括  
 しながら、産学官の  
 連携による新産業創  
 出の議論を展開した  
 のは豊田一雄議員。  
 幾つかの産学官連携  
 事業の蓄積から、次  
 世代自動車産業、新  
 農業の展開の課題と  
 また廣田勲議員は  
 大震災に伴う環境政  
 策に与える影響や、  
 危機管理における情  
 報システムについて  
 取り上げた。特に情  
 報システムについて  
 は情報管理とアウト  
 ソーシングの議論、  
 被災者支援システム  
 の展開などについて  
 は説得力があった  
 が、危機管理として  
 東北の被災地では住  
 民情報システム等が  
 壊滅的状况にある中  
 で、それを回避する  
 ためにも高速・大容  
 量のクラウドコンピ  
 ューティングにまで  
 迫っていたのだが  
 ったと残念に思つた。  
 「オープンソース」  
 にまで議論を広げた  
 のだから。

も重要であり、その  
 ためのエネルギー問  
 題は慎重にあるべき  
 だ」と答弁する市長  
 との対比は二元代表  
 制のあるべき姿とし  
 て印象強い光景だっ  
 た。  
 サイエンス・クリ  
 エイト計画の、約四  
 対応を説いていった  
 が、今一つ、説得力  
 に欠けた感があるの  
 は時代の変化に呼応  
 した市場のニーズと  
 産学官のシーズとの  
 マッチングの切り口  
 が明確でなかったか  
 らではないだろうか。  
 沢田都史子議員  
 （公明）は市役所の  
 BCP（地震対策業  
 務継続計画）を取り  
 上げたが、2年前か  
 ら事あるごとにこの  
 リスクマネージメン  
 ト手法の導入を訴え  
 てきた取り組みは評  
 価できるが、毎回、  
 同じような議論に終  
 始していないか。角  
 度を変えて身近なB  
 CPから創り上げて  
 いく具体的な取り組  
 みこそが、この停滞  
 感を打ち破れるので  
 はないだろうか。そ  
 こには官民格差の壁  
 があり、これをどう  
 乗り越えるのかとい  
 う課題が明確になる  
 はずである。

## もっと掘り下げるべき



伊藤秀昭氏

# 豊橋市議会 傍聴記

地方政治クリエイト・伊藤秀昭

〈下〉

■共産、オンブズマンの登壇に傍聴席もいっぱい  
三日目の最初に立った牧野英敏議員。大震災の教訓から「災害に強いまちづくり」のくだりでは「自助・共助・公助を強調するあまり、自助・共助に偏り避難所の人員配置などが浜松市と比べて少なくないか」と指摘したが、具体的な比較データ分析で迫るべきでなかったか。自主防災機能の体制強化についても、「防災リーダーの養

か。代表監査委員人事は議会の議決があつてのゆえである事。また不適正経理がらみの問題は公判中で、当局側の答弁は慎重な言い回しになつているとしてもである。  
■今こそ住民目線  
自治体議会の最重要課題である。しかし、これだけの大震災なのに全国の自治体では国や都道府県の動静を見守つていような節もある。確かに、中央防災会議の決定を待たなければできない

助こそ震災直後の最大の取り組みであるが、コミュニケーション意識の低下する一方で、増え続ける高齢者と要援護者など地域住民が総力で取り組まなければならぬ大きな課題がある。阪神大震災と比較して、決定的に違うのは高齢化の急速な進展である。いざという時に助け合わなければならないのは地域。近所だ。兵庫県の「加古川グリーンシティ防災会」。防災組織として日本の最先端を走り続けていると言われている。基本はいさつ運動と小さい親切運動から始まっている。特徴的なのは特技などを事前登録する「町内チャンピオンマップ」。看護師、医師、電気・電話・ガス・水道工事、老人介護歴、子守、インターネット操作など非常時に役立つ特技や資格などを登録して非常時に対応しようとしていることである。

## 東海地震三連動に対処を



地域に根差し、住民と向かい合っている地方議員の生活実感のある提案が、今ほど要請されているのではない。地方議会の真価が問われていることを肝に命じて、取り組んでいただきたい。三連動が危惧される東海地震はいっ起きてもおかしくないといわれている。残された時間は少ない。頑張れ！地方議員よ！

寺本泰之議員（紘基会）。「預け金を行っている業者をなぜ指名停止にできないのか」、「物品購入の際の一般競争入札の適用を全体の16%の500万円以上にして骨抜きにした理由は何か」、「代表監査委員が任期を3年残し

年、20年の不適正事件当時の財務部長が任命したのはなぜなのか」などと迫り、オンブズマン議員の本領発揮。しかしである、「こんなことではないのか」となぜ、さらに拳を上げることなく引き下がるの

の総点検を多岐にわたる東日本大震災の教訓、特に「想定外の大震災」をふまえ、市民の生命・財産を守り、安全・安心を確保するための「地域防災計画」をどのように見直ししていくのかは全国の実がある。自助・共